展示記録

企画展「記録のなかの復興と再生－東北大学の戦災復興資料から－」

会期　平成24年６月13日（水）～７月31日（火）
会場　東北大学史料館１階　企画展示室

永　田　英　明

一．企画の趣旨

本展示会は、東日本大震災の発生から１年余が経過するなか、災害とその復興に関する記録を作成・保存し将来に伝えることの必要性について提言することを目的に、当館が所蔵するもっともまとまった「大学の災害記録」として、第二次大戦における東北大学の戦災とその後の復興に関する記録をとりあげたものである。

東日本大震災とそこからの復興・再生に関する記録の収集保存の取り組みは、すでに様々なところで始まっており、当館においても、東北大学じしんの災害・復興記録の保存と公開に今後取り組んでいく予定であるが、その具体例として第二次世界大戦における戦災・復興をとりあげ、その記録がどのような形で現代に伝えられているかを紹介した。第二次大戦後の戦災復興と今回の震災復興とでは、被害のあり方も抱えている問題にも、さらには記録のあり方にも様々な違いがあるが、東北大学の人びとがどのように戦災記録を遺し、それはどのように伝えられてきたのかを考えることが、現代の体験を未来に伝えていくためのヒントになるのではないかと考えた次第である。

二．展示の内容および展示会の状況

展示は、（１）被災状況と緊急対応、（２）復興政策とその過程、（３）学生生活の復興、（４）物理学教室の復興記録という四つのテーマで構成した。

（１）・（２）は時間的経緯に即して立てたテーマで、被災状況の記録が、被害の状況を共有すると共にその後の復旧・復興計画を立てる上での最も基本となる記録であること、災害後の復旧・復興の立案計画、実施過程を検証できる記録を残していくことの重要性を意識して設定した。東北大学の場合（１）はそれなりに記録がまとめられているが、（２）についてはまとまった記録がなく、各所に分散しておさめられている記録を集めて展示を構成する結果となった。復興に関わる学内委員会などの記録がほとんど残っておらず、意志決定にかかる記録として最高議決機関である評議会議事録が残っているだけという状況であった。

（１）の場合は（２）のための国への予算要求等の基礎となる資料であるため作成・保存されやすいが、（２）の方は学内での執行にかかわる記録が主となるため、（１）に比べやや記録が残りにくいのかも知れないが、評議会議事録で知ることが出来る状況はやはりかなり限られている。重要案件については、その実質的審議をおこなう学内委員会等の記録の作成保存にも十分配慮すべきであることがわかる事例となった。

（3）は、大学（学校）特有の構成員である「学生」の動向に焦点を宛ててコーナーを構成したが、それは、学生の動向は大学の意志決定・運営にかかる公的記録とともに、個々の学生団体の記録など多様な「記録」に目を配る必要がある、という課題を意識したものである。この意識は（4）にも通じる。（4）は学内の個々の教育研究組織の独自の動きについて把握できる数少ない事例として、理学部物理学教室の事例を扱った。これは物理学教室の主任教授であった林威教授の個人文書として伝来した記録であるが、当時の学部内・学科内での対応の状況がよくわかる貴重な記録となっている。こうした学科や研究室レベルの記録は、事務部門における管理がなされにくい関係上「公文書」（法人文書）としては伝わりにくいのが現実であり、それは現代の大学の記録保存にも通じる課題である。東北大学史料館ではこうした記録を教員等の「個人文書」として受け入れ公開している状況であるが、それは公的な管理がなされてきた公文書と決して不可分なものではなくむしろ相互補完的な関係にある。こうした点からも多様なレベルで記録の作成・保存に留意する必要がある旨を展示のなかで表現したつもりである。

展示期間中の展示室入場者数は494名。期間中は当初土曜・日曜開館を実施する予定であったが、諸般の事情で実施することが出来なかった。

災害記録の保存と公開については、当館でも別に、館蔵の災害対応記録を電子化して公開していく「東北大学災害対応アーカイブズ」の公開を順次進め、災害科学国際研究所が進める「みちのく震録伝」への提供なども進めていく予定である。今回の展示で使用した資料などもその一環として、今後インターネットなどでの情報提供を進めていきたいと考えている。

三．展示資料目録・解説　－解説パネル・展示キャプションより－

※資料の翻刻は、縦書きのものを含め、全て横書きで統一した。翻刻の都合上、行割り、改行などについて適宜改編している。

0．趣旨解説（パネル）

記録のなかの復興と再生－東北大学の戦災復興資料を中心に－

東日本大震災の発生から１年余が経過しました。

「災害復興」が大きな声で叫ばれ、被災地における施設・設備、そして人びとが暮らす様々なコミュニティの復興・再生への営みが、震災直後から様々なかたちで始まっています。しかしその道のりはまだ遠いのも現実です。

災害からの復興と再生。それは、大きな傷を受けた人びとや社会が、これと格闘し乗り越えていく営みです。それは、現代に生きる私たちにしかできない歴史的体験として、次の世代に伝えていくべきものであり、その仲立ちをしてくれるのが、災害復興に関する様々な「記録」です。この記録を適切な形で遺し、未来に伝えていくことは、私たちの重要な責務でもあります。東日本大震災とそこからの復興・再生に関する記録の収集保存の取り組みは、すでに様々なところで始まっており、当館においても、東北大学じしんの災害・復興記録の保存と公開に今後取り組んでいく予定です。

この展示では、東北大学の過去の災害・復興体験のうち、第二次世界大戦における戦災・復興をとりあげ、その記録がどのような形で現代に伝えられているかをご紹介しています。

第二次大戦後の戦災復興と今回の震災復興とでは、被害のあり方も抱えている問題にも、さらには記録のあり方にも様々な違いがありますが、一方でそこには現代の体験を未来に伝えていくための、様々なヒントが隠されているようにも思います。

東北大学の人びとがどのように戦災記録を遺し、それはどのように伝えられてきたのか。この展示を通じて考えることができればと思います。

テーマ１「被災状況と緊急対応」

1-1. テーマ解説〔パネル〕

１．被災状況と緊急対応

被災状況の記録は、被害の状況を共有すると共にその後の復旧・復興計画を立てる上での最も基本となる記録です。一方災害発生直後にとられた緊急対応についても、何らかのかたちで記録を残す必要があります。

ここではその最もわかりやすい例として、昭和20年７月10日未明の仙台空襲による被害状況や直後の対応に関する記録を展示しています。

●現場の資料－理学部生物学教室資料「防護当番日誌」

当時学内では、夜間の空襲に備え教職員等が交替宿直する研究室などもあり、理学部生物学教室もそのひとつでした。その「防護当番日誌」は、担当教員の視点から空襲当日の現場の状況が克明に記された貴重な記録です。

●被災状況図など

空襲直後に作られたものではありませんが、戦後、被災した建物の復旧費要求に際し作成された図面が残っており、これと上記日誌や議事録などの記述を照合することで、建物の被災状況を把握することができます。

なお、写真は公文書としては残っていないようですが、個人等が撮影したものが貴重な記録として伝えられています。

●空襲後の緊急対応－評議会・教授会などの会議録

空襲翌日の７月11日には、各学部の教授会や全学の臨時評議会が招集され、被災状況の集約と今後の対応方針が話し合われました。午前中におこなわれた金研教授会では疎開や他部局等からの施設借用、後片付けの方針などが、午後の全学評議会でも（１）各学部の被災状況の報告（２）教室などの融通（３）焼け跡の整理と農園化（４）罹災者の取扱、などが話し合われた様子で、その内容は簡略ながらもそれぞれ評議会・教授会の議事録として伝えられています。

1-2.　理学部生物学教室の宿直日誌にみる空襲当日の状況（昭和20年７月10日）

理学部生物学教室寄贈『防護当番日誌』より

〔展示資料翻刻〕

23.58　Ⅵ、Ⅶは北部鹿島灘を↑、○－海岸ニ接近中

爆音、敵機ノ波状攻撃ヲ予感シ全員直チニ待避ス（第１濠へ）
現在員　伊藤、柴岡、長谷、高野、小畑、菊地
待避ト仝時に落下及ビ発火（駅方向）直後　〜〜
加藤園丁及び家族二名投壕、次イデ倉知、
以後連続波状落下及び発火
ソノ内教室附近ニ落下セルモノ.
教室門、公孫樹下ニ焼夷弾落下－津田来教室ト途次ニ之ヲ消火.
園内飼育池附近ニ焼夷弾落下、草木焔上、防空壕ヨリ出テ、生木ノ枝ニテ之ヲタヽキ消ス.
以下落下音、待避ノ連続ノ内ニ焼夷弾制圧、内庭、便所裏、便所屋根ニ落下.
元村教授出動、便所屋根ノ焔群最も危険ニシテ本館ニ引火ノオソレアリ元村教授以下全力之ガ消火ニ努ム．水ハ効ヲ奏セズ、トビグチニテ制圧ニ成功、屋上ソノ他教室内外ノ監視ヲ波状落下音、爆発音ノ中ニ断続的ニ行フ.
朴沢教授（第２壕へ）.
蝉小屋西方ニ焼夷爆弾落下、為ニ同側ノ教室全窓破壊、半数ハ窓及び窓付近ノ研究用品等処理、半数ハ消火、ソノ他同所附近、叢中ニ落下発火スルモ大シタコトナシ.
金研方向ノ焔上拡大、農研方向一部焔上、柳町方向ヨリ民家焼来リ、園丁室之カタメニ危険トナル、教室ハソノ後ノ連続落下ニ対シテモ幸ヒニ直撃弾ナク、防護員ハ之カ監視ニ努メルト共ニ、民家ヨリ旺ンニ降リ来ル火粉ニ怯意、園丁室ノ危険ニ伴ヒ、水ソノ他防火用具持参集結、之モ幸ヒニ道路ヲ距テ、幾分下火ニナリ一同安心ス．火災ト共ニ風強クナリ、教室ハ煙ト火粉ニ包マレルモ、サスガニ木造ト異リ之ニ対シテハビクトモセズ、開放セル窓ヲトザシ、破壊セル窓付近ノ可燃物除去、二、三の感想、焼夷弾ノミ（爆弾ヲ含マズ）ニ対シテハオソルヽニタラズ、何ニテモ手近ニアルモノデタヽキ消シフミツブシテ良シ、特ニヌレゴモノ如キハ最モ有効、水ノミハ大シテ効果ナシ、焼夷弾ニ対スル待避ハコンクリート地階乃至一階廊下最寄ノ場所デ事足レリ、教室内各室附近ノ可燃物特ニ注意、波状攻撃中ハ爆音（人）モ不明瞭ニナリガチ故消火員ハ焼夷弾及ビ爆弾の落下音ニ注意、之ト共ニ急速ニ待避再ビ勇敢ニ、速ヤカニトビダシテ全力消火、教室本館ハ焼夷弾ニハ先ヅ安全ナリ、落下箇所ヲ速ヤカニ発見、虱ツブシニ消火、之カタメ人員ノ適配ノ要アリ．バケツ、ソノ他消火器材ノアリ場所ヲ充分ニ知悉確カメオキ、消火ノ切レ目ニハ之ヲ集結確保スルコト.
（以下欄外別筆）
各位全くよく敢闘して下さった、感謝にたへない．日頃から特に防空に熱心であった当教室がこの非常時に見事守り抜かれた事を現実に目の前にし、元村、岡田正副班長以下の各位の没我挺身振りに熱涙の湧くのを覚える。本当にありがとう！！

1-3. 東北帝国大学　戦災建物配置図

財務部移管文書『昭和二十一年度戦災応急整備費要求書』より

文部省に提出した予算要求書の添付書類。現在の史料館を挟んで南北にならぶ理学部と法文学部が、集中的に被害を受けた。

1-4. 空襲直後に開かれた評議会での議論（昭和20年７月11日評議会）

『昭和20年　評議会議事録』より

一、本月十日ノ敵機空襲ニ依ル本学罹災ニ関スル件
熊谷総長　今回ノ敵機空襲ニ依ル本学ニ於ケル被害状況ノ一般ヲ報告シマス
先ツ北ノ方医学部、同附属医院、抗研及科研ハ被害ハナイ中デモ科研、抗研ハ附近ニ多数ノ焼夷弾攻撃ヲ受ケタガ職員ノ防火活動ニ依リ免レ得タ　次ニ理学部カラ報告願ヒマス
小林理学部長　理学部ハ木造本館ニ数弾投下サレ尚同本館、東西講義室蓄電池室、金工場旧館木工室、小使室及化学旧館三棟ヲ全焼シタ
熊谷総長　次ハ工学部ノ報告ヲ願ヒマス
西澤工学部長　化学工学科ハ中央鉄筋コンクリート建ヲ残シテ教室研究室、硝子工場全焼、機械工学科ハ工場、写真印刷室、小使室全焼、水力実験室ハ半焼、航空学科ハ旧建物、但シ内部ハ既ニ疎開済ノモノ及工場ノ一部、風洞ノ建物全焼内燃実験室ハ半焼其ノ他巡視室、倉庫、共通講義室ヲ焼失シマシタ
熊谷総長　旧本部ノ木造館ハ残リマシタ、法文ハ旧二高ノ木造館二棟、教室研究室事務室ガ全焼、第二研究室ノ三階ノ一部、学生控室小使室等ヲ焼失法文ニ近接シタ図書館ノ製本室トカモ焼失シタカ図書館本館及書庫ハ本部職員及学生諸君ノ敢闘ニ依リ類焼ヲ免レマシタ
渡邊評議員　電気工学科ハ損害アリマセン
熊谷総長　速研ハ如何デスカ
沼知速研所長　速研ハ殆ト全部焼失デス九〇坪ノ高速軸流研究室タケカ残リマシタ
廣濱法文学部長　法文ハ木造ハ全部焼失ト言フコトニナル木造ノ一棟ハ幸移築中タツタノデ建物タケデ内部ノ備品其ノ他ハ焼失ヲ免カレタ、他ノ一棟ハ事務室、教官控室等デス今後ノ研究ニハ差支ナイ第二研究室ハ三階ノ福井教授ノ研究室ニ投弾アリ被害ヲ受ケタガ同研究室全焼ヲ免レタ
小宮図書館長　第二研究室ノ三階ノ屋根ハ非常ニ薄イ雨ヲ防ク程度ニ過キナイアレデハ焼夷弾デ貫通スルノモ無理ハナイ
沼知速研所長　建築ノ粗悪ナノニハ困ル、速研ノ建物ナトモ屋根ノ瓦ト瓦ノ隙間カラ火ノ子ガ入ツテ遂ニ延焼シテシマツタ
職員は八〇％出動、防火活動ニ極力努力シタカ遂ニ焼失シタ
熊谷総長　理学部ハ被害対策ヲ如何スルカ
小林理学部長　先ツ事務室ヲトコニ移サウカト考ヘテヰル室ヲ貸シテイタタキタイ
熊谷総長　北山ノ科研ノ一部、航空ノ疎開シタアト等ヲ利用スルコトモ出来ル
熊谷総長　法文ハドウカ
廣濱法文学部長　授業ハ停止ノコトニナツテヰルガ実際ハ時々行ツテヰルカラ教室モ考ゲテモライタイ
熊谷総長　オ互出来ルタケ室ヲ融通シ合ツテモライタイ
小宮図書館長　閲覧室ヲ会計課デ使用スルノハ困ル、学生ニ対スル唯一ノ施設トシテ残シテ置キタイ今日ノ情勢下学生ニトツテハ貴重ナモノトナラウ
渡邊評議員　電気監督トシテ申シ上ケマス、学内ノ自動電話ハ明日カラ開通ノ見込デス

沼知速研所長　庶務会計等ハ鉄筋コンクリート建ノ中ニ入レルコトヲ希望スル
小林理学部長　学生ノ閲覧室ハトコカニ移セヌカ
熊谷総長　工学部ハ授業ヲトウスルカ
濱住選研所長　金属ハ一ヶ月休講スルコトニシマシタ、学生ノ罹災ハ相当多イ様デス講義ハヤレハ出来マス
廣濱法文学部長　学生ガ仙台ニ居ラレナイ事情ハ配給ノ二合一勺デハヤレナイタメデアル、下宿ハ昼食ヲ出サナイシ学生食堂ハ焼失シタノデ
熊谷総長　問題ハ授業ヲ今ヤルトカヤラナイトカ言フコトデハナク今後仙台デ授業ヲヤツテ行クカトウカツマリ疎開スルカ茲デヤルカノ問題ヲ聞キタイ
西澤工学部長　工学部ハヤレマス
廣濱法文学部長　法文モヤレマス
小林理学部長　理学部モ室ヲ借リレハ出来マス
本多金研所長事務取扱　金研ハ旧工場三棟、充填室砂鉄研究室及同附属建物三棟、分析室三棟小使室、車庫一棟、強磁場研究室一棟ヲ焼失シタカ何トカヤツテ行カウト思フ殊ニ外ヘ出テ工場ト協力シテ研究スルコトニナツテヰルカラ其ノ方デ相当ヤレルト思フ、酸素充填モ遠カラス復旧シテヤルツモリデス
原非研所長　液体酸素製造機ヲ評定河原ヘ設備スルツモリデ三菱カラ仕入レタ機械ヲ教室ノ玄関前ニ置イタノヲ焼イテシマツタ
抜山通研所長　通研ハ殆ト被害ハアリマセン、一部疎開モ実施シマシタ
沼知速研所長　疎開シヤウトシテ計画中ニヤラレマシタ．疎開ガ出来レバ研究ヲ続行シマス
原非研所長　図書ハ助カリマシタ　工芸指導所ヲ借リテ約二割疎開シ其ノ分ハ助カリマシタ　其ノ外ハ疎開計画中輸送ガ遅レテヰタノデヤラレマシタ　工芸指導所ハ本省ガヤラレテ疎開シテクルコトニ成ツタノデ利用出来ナクナツタノデ非水ノ未完成ノ建物ヲ至急竣工シテ之ニ化学工学科ト非水トガ入ツテヤツテユクツモリデス　知事カラモラツタ旧職業指導所ノ建物モスツカリ焼失シテシマイマシタ
三浦会計課長　非水ノ建物ノ資材ハ全部無事デスカラ工事ヲ進メマセウ
雨宮農研所長　農研ハ化学実験室一棟焼失シタノミデ大シタ被害ハアリマセン
濱住選研所長　全部無疵デ残リマシタ
熊谷総長　之デ一通リ御報告ヲ伺ヒマシタガ問題ハ疎開スルカ此処ヲ死守スルカデアリマスガ御意見如何デスカ　オ互助ケ合ツテ一日モ早ク復興ヲ計リタイ　尚今後更ニ空襲ガ予想セラレマスカラ防空ノ強化ニ一層ノ努力ヲ願ヒ度イ、先ヅ学徒隊ヲ動員シテ焼跡整理ヲシ更ニ農園化シタイ　医学部ノ学生ハ今日早速来テクレテ焼跡ノ整理ヲ手伝ツテクレテヰエウ　会計課長跡片附ヲ医学部及医専ノ学生達ニヤツテモラヒマスカラ計画ヲ立テテ下サイ
抜山通研所長　学生ハ動員デ痛感スルコトハ道具ノ不足デアル
本多金研所長事務取扱　焼跡ニ各種ノ金属ガ残ツテヰルカラコレヲ集メサセ之ヲ鉄其他ノ種類ニ分類シテ資材トシテ使用スルヤウニシタイ　其ノマヽ使用出来ルモノハ少イガ原料トシテハ貴重ナモノデアル　大学ガ大学ノモノデ見本ニヤツテミテハドウカ
熊谷総長　選研アタリデ製錬デキマスカ
濱住選研所長　出来マスガ集メタ金属類ヲ切ル機械ガ必要デス

熊谷総長　学生課長学生ノ動員ヲ計画シテ下サイ
小宮図書館長　一般市内ノ分モヤルノナラ今ガ適当ダト思フ
廣濱法文学部長　市内ノ分ハ個人ノ所有物デアルカラ其ノ点ヲ考ヘル必要ガアラウ　東京都デハ臨時措置ヲシタ様デアル
三浦会計課長　市内ノ分ハ金属回集組合ノ手デ実施スルト思フ　先ヅ学内ノ分ヲ学生ニ集メサセ之ヲ製錬スルコトニシ又一方地方ニ対シ金研ト選研デ或ル程度ノ再製錬ガ出来ルト云フコトヲ知ラセルコトニシタイ
小宮図書館長　硝子ノ破片ハ再製出来マセンカ
富永硝研所長　ヤレマス
熊谷総長　オ互出来ルダケ焼失方面ヘ室ヲ提供シテ一日モ早ク研究及授業ノ復興ヲ計リタイ、職員隊ノ動員ハ如何
三浦会計課長　相当罹災者ガアル様ダカラ今ノトコロ困難カト思ハレマス
金倉学生課長　各所属学生ニ其ノ部局ノ分ヲヤラセテ尚不足ノ場合ハ都合ノツクトコロカラ応援サセル様ニシタイ
本多金研所長事務取扱　罹災職員ニハ休ミヲ与ヘタイ　出勤者モ少イガ各整理ヲサセル必要モアラウ　併シ罹災者ト非罹災者ト無差別ニ休マセルノハドウカト思フ
西澤工学部長　休ミヲ欠勤トシマスカ　公ニ休ヲ認メマスカ
中村評議員　公ノ休ミニシタイ
熊谷総長　所謂一年ニ二〇日ノ休暇ガアルカラ、其ヲ利用スルコトニシテハ如何
西澤工学部長　既ニ休暇ヲ全部トツタト云フモノモアラウ
本多金研所長事務取扱　二〇日ノ休暇以外ノ休ミトシテ認メテヤリタイ
熊谷総長　臨時ニ五日位休ミヲ認メルコトニシテハ如何
一同了承
抜山通研所長　罹災者ニ特別賞与ヲ出シテホシイ
廣濱法文学部長　法文ニモ相当罹災者ガアル何カ御考ヘ願ヒタイ
熊谷総長　考ゲテミマセウ
抜山通研所長　下級職員ノ中ニハ勤務ニ対スル観念ガ薄イモノガ相当アル様デアル　淘汰シタラヨイト思フ　又ドコ迄モ働カウトスル者ハドコ迄モ賞賛シテヤル　私ノ生活ヲ公ニ見テヤル必要モアラウ
熊谷総長　抜山サンノ云フヤウナコトヲ実行シヤウ　勤務ノ不可ノ者ハ引締メテ下サイ　賞与ヲ減ラシテモヨイ　今度職員ノ懲戒ニ関スル処分ノ職権ガ可ナリ広範ニ委任ニ成リマシタ
高橋（純）評議員　今回ノ空襲デ敢闘シタ宿直員等ヲ褒賞シテホシイ
西澤工学部長　学生中ニモ相当アリマセウ
廣濱法文学部長　ヤルナラ成ルベク早イ方ガヨイ

1-5.　７月11日評議会で報告された各部局等被災状況と焼失建物〔パネル〕

理学部	木造本館に数弾投下され本館・東西講義室・蓄電池室・金工場旧館・木工場・小使室、化学旧館三棟等を全焼

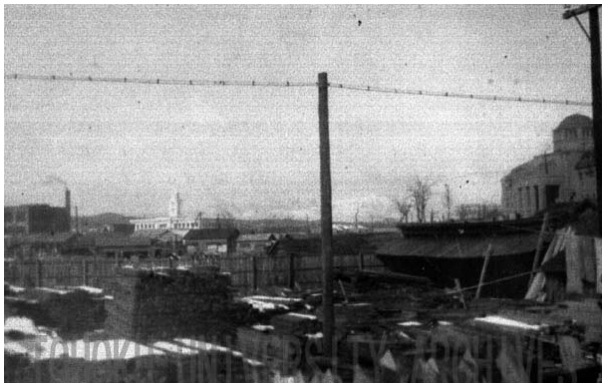
工学部	化学工学科：一部を除き全焼 機械工学科：工場・写真印刷室等全焼、水力実験室半焼 航空工学科：工場・風洞実験室
法文学部	旧二高の木造館２棟（教室事務室研究室）全焼 第二研究室３階の一部、学生控室等焼失
図書館	製本室・小使室焼失
高速力学研究所	全焼
金属材料研究所	工場、砂鉄研究室、分析室、強磁場研究室等12棟全焼

1-6.〔写真パネル〕戦災後の片平キャンパス／昭和22年10月（国土地理院提供）
1-7.〔写真パネル〕空襲で被災した理学部赤レンガ館（物理学教室）／昭和20年７月
1-8.〔写真パネル〕戦災後の片平キャンパス内（工学部機械工学科付近）
1-9.〔写真パネル〕戦災後の戦災後の仙台市内（片平キャンパスー北目町付近）
1-10.〔写真パネル〕戦災後の仙台市内（旧斎藤報恩会ー錦町公園付近）

1-7

1-8

1-9



1-10

テーマ２．復興政策とその過程
2-1. テーマ解説〔パネル〕

２．復興政策とその過程
災害後の復旧・復興がどのように立案計画され、実際にどのように進められていったのか。その過程を検証できる記録を残していくことも、重要な課題です。

東北大学の戦災復興計画に関する記録は、必ずしも豊富とはいえず、かたちとしても整理されているわけではありません。それでも、会議録や予算要求など恒常的に作成る文書の中に、その過程が様々な形で記録されています。

●「終戦後ノ対策ニ関スル件」－終戦直後の評議会議事録－

昭和20年８月17日、評議会において「終戦後ノ対策ニ関スル件」という議題で今後の大学の方針等が協議され、その記録が残っている。教官から様々な意見が出されている。席上では「振興委員会」や「建築委員会」など、評議会の下に置かれていた各種委員会で検討してほしい、という発言も出されているが、これらの委員会での議論の状況は残念ながら伝わっていません。

●戦災応急復旧費要求書―財務部予算関係資料―

復旧・復興には当然ながら経費が要る。戦前期の予算制度では災害その他の非常時に支出できる国家予算として「第二予備金」の制度が設けられており、この制度を使って戦災応急復旧費を要求するための一連の資料が、財務部から当館に移管されています。各部局の要求を大学本部でとりまとめたもので、復旧において何が重視されていたかをうかがうことができます。

●東北帝国大学復興委員会

昭和21年10月の評議会記録では、「東北帝国大学復興委員会」が設置されています。これは主として施設復旧に関する事項、おそらくは予算配分の順位付けなどをおこなう委員会のようです。ただ残念ながら同委員会の議事録等はまったく残っておらず、詳細はよくわかっていません。

2-2. 東北帝国大学の戦災復興年表

①応急対応

昭和21年

１月「大学の革新振興に関する具体的方策」について総長より各教授に諮問

５月21日総長より文部大臣宛、昭和二十一年度戦災応急整備費要求書提出

６月20日苦竹工員宿舎松風寮の一部譲渡

10月15日評議会で「東北帝国大学復興委員会」設置

②学制改革と木造校舎復旧

昭和22年

３月31日教育基本法・学校教育法公布

４月19日農学部設置

９月30日東北帝国大学を東北大学と改称

法文学部戦災校舎の木造再建

昭和23年

工学部応用化学科仮設木造施設建設（～24年）

新学制への移行をめぐる議論・折衝等

昭和24年
　４月１日　　法文学部解体→法・経済・文学部設置
　５月31日新制東北大学発足
昭和25年
　法文学部第三研究室（木造）竣工
昭和26年
　数学・天文学教室用木造仮設研究室竣工
③恒久的施設復旧
昭和27～32年
　被災施設の跡地に鉄筋コンクリート建新館が次々と建設
　工学部応用化学科・非水研新館竣工
　理学部新館の建設
　文系学部新館建設（第四～第六研究室）

2-3. 昭和20年８月17日評議会議事録

『昭和20年　評議会議事録』

「終戦後ノ対策ニ関スル件」として当面の対応に関する協議が行われた。

●展示資料翻刻

二、終戦後ノ対策ニ関スル件
二、終戦後ノ対策ニ関スル件
熊谷総長　大東亜戦争モ陛下ノ御聖断ニ依リ終戦トナリマシタ日本再建ニ当リ学問ノ研究ハ今後益々重要トナリマセウ併シナガラ今迄ノ遣リ方ガ宜シカツタカ悪カツタカ殊ニ科学ノ戦ニ於テハ全ク敗レタノデアルカラ此ノ事ヲ深ク心ニ銘記セネバナラヌ勝ツテ戦ガ終ルノナラ復興モ比較的容易デアラウガ左様デハナイノデアルカラ中々困難ナコトト思フ、差当リ必要ナコトハ出来ルダケ早ク復旧シテ教育ト研究ヲ開始スルコトデアラウ政府ニ於テモコレカラ緊縮政策ガ行ハレルコトト思フカラ仕事ハ縮小シテ内容ヲ良イモノニスルコトガ必要デ此ノ際之ヲ速急ニ実施シ軈テ外国兵ガ進駐シテクルコトデアラウカラ其ノ場合静粛ニ研究ヲ遣リツツアルトコロヲ見セタイモノデアル、職員、学生ノ一部ガ非常ニ動揺シテヰルトノコトデアルカラ明日一同ヲ集メテ此ノ間ノ文部大臣ノ訓示ヲ敷衍説明シテ訓示スルツモリデアル、前ニ申上ゲタ通リ食糧増産ハ愈々必要トナツタ此ノ点ニ就テモ充分御考ヘ願ヒタイ
小宮図書館長　金倉学生課長軍事教練ハ如何ナルノカ
金倉学生課長　何分ノ沙汰アルマデ其ノ儘ト言フコトデス、食糧増産ヲ遣ツテモラウツモリデス
広浜法文学部長　法文ノ焼跡整理ヲ遣ツテマスガ何処ヘ行ツテモ手伝ツテクレナイ、動員解除ニナツタ学生ハラヂオ新聞ニ依ルト家ニ帰ルコトニナツテヰルガ仙台ヘ帰ツテモ宿モナシ焼跡整理モ容易デナイ
原非研所長　出来ルカ出来ナイカ分リマセンガ配給ノ二合一勺デ焼跡ニ寮ノ様ナモノヲツ

クリ教授ノ監督デ焼跡整理ヲヤラセテ居マス、蕎麦ヲ播クコトモ始メマシタ
広浜法文学部長　教育スル処トシテノ大学ハ仙台ニ在ルコトガ必要デセウガ研究所ノ方ハ地方ニ在ツテモ必ズシモ研究ガ出来ナイワケデモナイト考ヘル
中村評議員　航空ノ学生ハ何人位アルノカ
西沢工学部長　一クラス約四〇名デ四クラスアル。航空学科ハ今後認メラレルカドウカ分ラナイ
広浜法文学部長　機械科ト言フコトデヤラネバナラヌダラウ□□
西沢工学部長　疎開シタモノヲ元ヘ戻スコトハモウ少シ時ヲミテ遣リタイ
熊谷総長　原則トシテ戻スコトニシタイ
西沢工学部長　此ノ際敷地ノ増張ヲ考ヘテハドウカ、北目町及米ケ袋ノ少年院跡等ハ将来ノ為必要デハナカラウカ
熊谷総長　増張ノコトハ中々困難ダト思フ
窪田評議員　軍関係デ通ツタ予算ノ名目ヲ変更シテモライタイ
熊谷総長　今遣リツツアリマス
広浜法文学部長　学研カラノ金ノ大部分ハ使ヘナクナルデセウ
熊谷総長　同シコトヲ遣ツテヰテモ基礎研究ト言フコトニスレバ遣レルト思フ
西沢工学部長　講義ハ続ケラレルカドウカ
広浜法文学部長　何トカ続ケテ遣ツテ行キタイ
抜山通研所長　今マデノ教育ハ不可ト言フコトニナルノデハナイカ
広浜法文学部長　独逸デハ「ナチ教育」ハ不可ト言ハレテルガポツダム宣言デハ日本ノ教育ニ就テハ何モ言ハレテヰナイ
抜山通研所長　名前ヲ変ヘルト言フ様ナ姑息ナ遣リ方デナク止メル可キハ止メ遣ル可キモノハ遣ルト言フ方針デ中途半端デナク真実ニ遣ツテ行キ度イ平和的ニ生産的ニ遣ツテ行クベキダ、人類ノ文化ニ貢献スルト言フコトデアレバ米英ト雖モワルイト言フマイト思フ堂々ト誠意ヲ示スコトガ必要デハナカラウカ、今マデノ研究ハ失敗シタノデアルガ基礎教育サヘ遣ツテ行ケバ将来立派ナ研究ハ生レルト思フ
広浜法文学部長　教育スル処トシテノ大学ヲ早ク再建シタイ其ニハ仙台ニ於テ遣ルコトガ必要ダト思フ
熊谷総長　コレカラノ大学ノ行クベキ道等ニツイテハ振興委員会デ更ニ研究シテミタイ
西沢工学部長　建築委員会ヲ強化シテコレカラノ建物ニ就テハ空地ニ只建テルノデハナク各方面カラ研究シテ計画シテモライタイ
伊藤附属医院長　学生ノ此ノ数日間ノ悲壮ナ動キニ就テ学生課長其ノ他ノ御意見ヲ承リタイ
金倉学生課長　学生ハ大学ガ焼ケテ遣レルカドウカト迷ツテヰル非常ニ意気銷沈シテヰル学生ノ居ル所ト食物トヲ考ヘテヤラネバナラヌ
伊藤附属医院長　以下速記ヲ止メテモラヒタイ
（中　　略）
熊谷総長　大学ノ向フベキ道ハ教育勅語ニ御示シニナツタ聖旨ノ外ニナイ
小宮図書館長　現在ノ学生一代デ日本ガ復興スルノデハナイ其ノ子供、或ハ孫ノ時代トモナラウ学生ハ目前ノコトバカリ考ヘルカラ暗イ気持ニモナルノデアル永イ将来ヲ考ヘテ希

望ヲ持タセタイ
熊谷総長　明日其ノコトヲ訓示スルツモリデス
西沢工学部長　学資ニ困ル学生ガアル様ダソノ為ニ家ニ帰ルモノモアル学生課デ何トカ考ヘテモラヘヌカ
金倉学生課長　少額ナラ奨学資金又ハ報国会ノ金ヲ一時立替ヘルコトモ出来ル先生方ノ保証ヲ御願ヒシタイ

2-4. 昭和二十一年度戦災設備復旧費部局別要求書

財務部移管文書

復旧の第一歩として、応急的に必要な設備備品等を各部局に照会しとりまとめたもの。調査は20年秋から冬にかけておこなわれた。

2-5. 昭和二十一年度戦災復旧建物及設備品費要求書

財務部移管文書

第二予備金（非常時に支出が認められる予備金）による要求事項として昭和21年度に2600万円弱を要求。そのうち1681万を建物復旧費が占めた。

2-6. 東北帝国大学復興委員会の設置（昭和21年10月15日評議会議事録）

東北帝国大学復興委員会が設置されたのは、戦争終結後1年以上経過した昭和21年10月。同委員会での審議内容を示す記録は殆ど残っていないが、復興予算の配分調整などがおもな役割だったものとおもわれる。

●資料翻刻

総長　（前略）
次に協議事項として本学復興委員会の規程案を提出し建築委員会とは別に、これに依って実際に復興してゆき度い、政府の命令と必要性から復興して行かねばならない、又関係の多いところは人数を多く、少い処は少数でもって委員会を構成したいと述べ内容に付いては会計課長説明
会計課長
本年度二百九十万円、繰越が出来ないこと、又進捗状況が悪るければ以後の予算は経済安定本部で取り上げて他の公共事業へ廻はす進捗状況は抜打的調査とする由.
事務当局のみでは到底出来ないので御協力願ひ度い、今迄の各種委員会は事務局で案をつくってやったが今度の委員会は実際委員会でつくる案によって積極的にやってゆく積りである. と述べ尋いで庶務課長規程案朗読す.
総長　第一条　この名称と第一条はと意見を求める.
抜山評議員より、「調査審議するとあるが、実行はどうか」と質問あり会計課長「実行は総長がする」と回答、又
高橋評議員（理学部長）より「対象となる経費は経済安定本部からくる筈であるがその方もするか」又抜山評議員より「経費の割当はどうか」と質問。之に対し会計課長より、総て安定本部より二百九十万円きてゐるがこれは請求の一割八分に相当する従って決定してゐない重点的なってゆくであらうと答弁

高橋評議員（法文）より「一条と名称はよいであらう」
総長　第二条は？と
武藤、抜山両評議員より具体的に説明願度旨申出あり
これに対し「戦災を受けた部局より」と云ふ説明あり.
第三条、異議なく　第四条若干の修正あり（別紙）
この時武藤評議員より「病院等の問題は如何になるか」と質問に対し会計課長より「病院の復旧は別途予算である」と説明
第五、第六条異議なく第七条の「総長」は「委員長」と訂正
第八条の説明（復旧したらその部局の委員は出なくてもよいのである。第四条第二項によるもののみで構成する）をなし了承.
第九条　若干の修正あり　第十条異議なく規程を了承.
武藤評議員より「二百九十万円を使ふ割合はこれから決めるのか」との質問に対し会計課長「これを委員会で審議して貰ひ度」と述ぶ.
又松隈評議員「今からでは遅くはないか二十一年度中に見込あるか」の問に対し会計課長は「見透がついてゐる」と述ぶ.
武藤評議員「一坪幾ら位で出来るか」との問に対し営繕課長「新しくすれば五千円、古いものなら三千円であるから四千円とみてゐる」旨述ぶ. 又「研究所を除いて学部復旧は幾らかゝるか」との武藤評議員の質問に対し会計課長「約二千万かゝる」と述ぶ
佐藤評議員（医学部長）「医学部（元航空医学研究所）は接収解除になったが家具類は持出し等のため一応この復旧に入れて貰ひ度い旨の申し出があった.

2-7.〔写真パネル〕理学部本館跡地に建てられた木造校舎（数学教室）
昭和26年竣工

2-8.〔写真パネル〕ガラス研究所（のち非水溶液化学研究所）の復旧木造建物
昭和26年竣工

2-9.〔写真パネル〕文・教育学部の鉄筋コンクリート新棟（現生命科学研究科）
昭和27年竣工

2-10.〔写真パネル〕法・経済学部鉄筋コンクリート新棟（現施設部等）
昭和32年竣工

2-7

2-8

2-9

2-10

テーマ３．学生生活の復興

3-1. テーマ解説〔パネル〕

３．学生生活の復興

大学の復興。それはもちろん、施設や設備の復興だけではありません。研究・教育、そして学生たちの生活環境の復旧もまた、重要な課題です。寄宿舎や下宿の復興、厚生施設の復旧、さらには課外活動にかかる環境の復旧。こうした事柄に関する記録も、大学の重要な「災害復興記録」として、意識して保存・継承していく必要があるのではないでしょうか。

●「学生寄宿舎斡旋に関する件」－評議会議事録から－

戦後、大学での授業再開に際して、教室などの大学施設の復旧と共に深刻な課題となったのが、学生たちの住居問題でした。市街地一面が空襲をうけた仙台では学生用の下宿がなく、住居に困る学生が多かったのです。東北帝国大学では戦前には学生寮がほとんどなかったのですが、こうした状況に対応するため、学生寄宿舎の確保が進められることになったのです。

●学友会の再建と復興―

戦争の終結と共に、学生たちの課外活動も再開されます。戦時体制下につくられた「東北帝国大学報国会」を解散再編するかたちで昭和21年には新しい「学友会」が発足しました。しかし各部のなかには戦時下の物資統制や空襲により活動のための備品を失ったところもあり、それらを再び揃え、活動を再開することも「復興」の営みでした。

●厚生会館の設立―北門食堂の誕生―

2011年に解体撤去された片平キャンパスの北門食堂。これもまた、戦後「復興」の一環で建てられました。戦前には創立二十五周年記念会館が同所にありましたが空襲で焼失。戦後学生や卒業生その他の寄付によって再建されたのがあの北門食堂です。北門食堂の建設に関しては、その報告書もまとめられており、これも立派な戦災復興資料です。

3-2. 学生の宿舎確保（昭和20年10月９日評議会議事録）

大学教育の再開において、教室等の確保以上に深刻な問題となったのが、市内において学生たちが住む下宿が圧倒的に不足している、という状況であった。大学では事務等などに便宜的

に学生を住まわせる一方、諸方面に交渉して寄宿寮を各所に開設しその確保を図った。明善寮が東北大学の寮となったのもこの時。

六、学生ノ宿舎ニ関スル件
熊谷総長　学生部長カラ学生宿舎斡旋ニ付テ現在ノ進捗状況ヲ説明シテ貰ヒタイ
金倉学生部長　二高ノ明善寮ハ四〇〇名位収容ノ見込デ之ハ十月二十日頃引渡シヲ受ケル予定デアル其マデ元本部ノ用度掛ノ居タ跡ヘ二〇銃器庫跡ヘ三〇位ベッドヲ入レテ収容スルコトニシタ次ニ北四番丁ノ航空寮ニ二〇名位、医学部ノ学生食堂ノ二階ガ畳敷デアルカラ之ニ収容出来ル、更ニ昭和舎モ従来ヨリ多ク入レテ貰フコトニシタ　其他東北金属ノ諏訪工場ニ一〇名ダケ萱場製作所ハ二六〇名ト四五〇名ノ工員寮ガアルガ目下事業拡張ノ計画ガアルタメ借入中止トナッタ。和田産婦人科病院ニモ交渉中デアッタガ家庭ノ事情ノ為借入不能トナッタ其他日産、本山製作所、特殊鋼ニ就テモ交渉シテミタ
日本発送電ノ和敬寮ハ駄目、東洋館ハ貸シテモヨイトノコトダガ警察方面デハ料理屋ニ復活スルコトヲ慫慂シテヰルトノコトダ之ハ今後更ニ関係方面ト折衝シテ是非目的貫徹ニ努力スル考デアル多賀城海軍工廠社宅モ良イモノハ進駐軍ニトラレタガ多少残ツテヰルノデ交渉中デアル次ニ長町ノ廣瀬アパートハ大学ニ貸シテモヨイトノコトダガ九月ニ開業シタバカリデ学生一〇名其ノ他二〇名ガ入ツテヰルガ交渉シテ全部ヲ貸シテ貰フコトニ諒解シタガ二〇名ヲスグニ出スワケニモ行カヌノデ時日ノ猶予ヲ求メラレテ居ル
廣濱法文学部長　去ル一日開講式ヲヤツタガ二〇〇名程帰学シタ併シ宿ガ無イタメ再ビ家ニ帰ツテ行クト云フ始末デアル、食糧ニ就テモ三食外食券ダケデハ到底不足デ日乾シニナル、下宿ヲスルニモ月三升乃至五升ノ米ヲ出サナケレバナラヌトノコトダ。明善寮ハ如何ナル形式ニナルノカ借用スルノカ
金倉学生部長　如何デアル
三浦会計課長　目下文部省ニ交渉中デアルガ国有財産ハ移管スル考ヘデアル、国有財産以外ノモノガ有ルガ之ハ大学側ニ対シ買収スルコトヲ希望シテヰルトノコトデアル
金倉学生部長　船岡海軍火薬廠ノ工員寮「萩ノ寮」ニ畳ガ千枚アル二高ニ之ヲヤレバ明善寮ノ畳ハ其ノ儘譲ルコトニナッテヰル二高ガ幼年学校跡ヘ移リベッドノ上ニ使用スル為デアル
廣濱法文学部長　宿舎ノ問題ハ学生ニトッテハ非常ニシリヤスナ問題デアリ御配慮ヲ願ヒタイ自分等モ必要アレバ十分協力スル
尚学生宿舎ヲ大学ガ折角配慮斡旋シテ居ルコトヲ大部分ノ学生ハ未ダ知ラヌ様ダ明善寮ノ宿舎ニ付テ差支ナクバ学内ニ公示シテ申込マス様ニ取計ツテモライタイ
金倉学生課長　了承
熊谷総長　二高ニハ運動場ノ外相当ナ空地ガアルカラ其ヲ農園化スルコトガ必要デアル
中村評議委員　大学ノ農耕指導ノタメ専門ノ技師ヲ採用シテハドウカ
熊谷総長　其ノコトハ色々考ヘテミタガ実行困難デアル又農夫ヲ採用スルコトモ真面目ナ者ヲ求ムルコトハムズカシイ
三浦会計課長　住宅営団デ戦災者ノタメ応急住宅ヲ新築貸与スル計画ガアルノデ本学職員ノタメ本部デ取纏メテ申込ンデ置イタ詳細ノ條件ニ就テハ十五日頃発表スルトノコトデアル御了承願ヒタイ

3-3. 学友会の再建（東北帝国大学学友会会案　昭和21年）

学生部移管文書『雑件　昭和二十年以降』より

戦時下において「報国会」などと称していた学友会組織は、戦争終結と共に解散しあらためて「学友会」として再建されることとなった。資料は、昭和21年に制定された「東北帝国大学学友会会則」の最終案。収載文書である『雑件　昭和二十年以降』には、検討段階の案や中央会の規則案・会議記録もあわせて綴じられている。会議記録に依れば中央会には文化部に講座・文芸・音楽・宗教・図書・美術・映画・演劇の８部、体育部に陸上競技・山岳・スケート・野球・庭球・蹴球・籠球・卓球・ラグビー・水泳・体操・漕艇・帆走・乗馬・排球の15部が予定されている。

●資料翻刻

学友会会則

第一章　総則

第一條　本会は東北帝国大学学友会と称する

第二條　本会は会員の相互錬磨に因って文化の向上、体育の増進並に生活の改善を図り本学学風の振興に資することを目的とする。

第三條　本会は本学職員及び学生生徒の全員を以て組織する。

第四條　本会は中央会と学部会との両会より成る。

中央会は特に必要とする場合の外は単に学友会と称する。

第二章　組織

第五條　本会に全学協議会を置く。

全学協議会は会長、学部会長、総務、文化、体育、生活、新聞の各部長、参与並に委員を以て構成する。

全学協議会は左記の事項を決議する。

一一般的企画及び連絡に関する事項

二會則の改正増補に関する事項

三中央会の予算及び決算に関する事項

四其の他の必要なる事項

全学協議会の議事は協議員三分の二以上の出席の会議に於て過半数を以て議決する。

全学協議会の議決した事項の中、必要なものに付ては本学評議会の承認を要する。

第六條　中央会には総務、文化、体育、生活及び新聞の五部を置き本会の目的を全学的に達成する為めに必要な事業を行ふ。

総務部は一般的企画及び連絡の事に当り且中央会各部間の統一を図り庶務、会計を掌る。

文化部は文化の交流並に向上に資する事業及び施設を掌る。

体育部は身体の鍛錬に資する事業及び施設を掌る。

生活部は保健及び福利の増進に資する事業並に施設を掌る。

新聞部は新聞雑誌等を発行し学園の言論機関となる。

中央会の各部は必要に応じて夫々数部に分けることを得る。

第七條　中央会の各部の規則は別に之を定める。

前項の規則は全学協議会の承認を経ることを要する。

第八條　学部会は当該学部の職員及び学生生徒を以て組織する。
第九條　学部會則は別に之を定める。

第三章　役　員

会長一名、学部会長四名、総務、文化、体育、生活、新聞の各部長五名、参与若干名、理事若干名、幹事若干名、委員若干名。
第十一條　会長は東北帝国大学総長とする。
会長は会員の総意を体して本会を掌理し中央会長となる。
会長は全学協議会を招集し其の議長となる。
第十二條　学部会長は当該学部長とし学部会員の総意を体して之を掌理する。
第十三條　総務、文化、体育、生活、新聞の各部長は各部員により推薦せられた教授中から会長が委嘱する。
部長は会長を補佐して各其部を掌理する。
第十四條　参与は各学部、研究所及び本部より推挙せられた各一名の職員とする。
第十五條　理事及び幹事は学生部事務員及び会長の指名した者を之に充て中央会各部に属して当該部長を補佐し部務に従事する。
第十六條　委員は学生生徒の互選に因って選出せられた学生生徒とし、会長が委嘱する。但し委員は各学部より三名、中央会各部より二名とする。
委員の任期は一ヶ年とする。但し重任を妨げない。

第四章　会　計

第十七條　本会の経費は会費、校費及び其の他の収入を以て之を支弁する。但し生活部新聞部は特別会計とする。
第十八條　会員の中職員たる者の中央会費は左の区分に依る。
一二級以上の文部教官、文部事務官、文部技官及び同待遇者は年額拾五円
二三級の文部教官、文部事務官、文部技官及び同待遇者は年額拾円
三前二号以外の者は年額金五円
第十九條　会員の中学生生徒たる者に付ては入会金として金拾五円及び中央会費として在学期間を通じて金参拾円（医学部及医学専門部は金参拾五円）を負担する。但し会員の中大学院学生たる者に付ては入会金は免除し、中央会費は在学期間を通じて金参拾円とする。
第二十條　会員の中職員たる者の中央会費は毎年四月の俸給又は手当支給日に其の全学を納付するものとする。
会員の中入会金及び中央会費は其の全額を入学の際授業料と共に納付するものとする。
第二十一條　学部会の会費に付ては凡て学部会々則に依る。
第二十二條　本会の事業年度は毎年四月一日に始まり翌年三月三十一日を以て終る。
第二十三條　本会の次年度予算は二月末日迄に之を決定する。
第二十四條　本会の前年度決算は四月三十日迄に結了することを要する。
第二十五條　本会の出納事務は本学会計課に委嘱する。
第二十六条　学部会の会計の中本規程と異る部分は学部会々則に依る。

第五章　附　則

本会則の改正は全学協議会の議を経て之を行ふ。

3-4. 学友会発会式について／（昭和二十二年六月三日評議会議事録）

日本国憲法発布の記念行事とのかかわりで、学友会の発会式をとりおこなうことが審議されている。

●展示資料翻刻

総長　憲法発布に関し行事をするかどうか協議願ひ度し
高橋評議員（法文学部長）これとは別に法文では考へてゐた．公開講座等をする予定である
総長　清宮教授に憲法に関する講義をして貰ってはどうか
抜山評議員　運動会でもやったらどうか、との意見あり．
総長より「学生部長に何か意見ないか」との質問に対し部長より
「学友会の発会式の行事をしてゐないので文化部、運動部等で何かやり度い　又文化祭等もよいと思ってゐる。学生間にも可成熱を持ってゐる。これらは憲法発布に関する行事とは関係なくやってゐるが出来るだけその行事と一致させたい。」
抜山評議員より「大学は文化の中心だから他へ呼びかけてはどうか
学生部長－学生に関する限りやってゐる。
高橋（法文学部長）－県庁でもやるやうだから何かやらねばならないだろう
高橋（理学部長）－三日が休日だから学生が失望してゐるので三日間位ついやして文化講義と体育方面とをやってはどうか」との意見あり．

3-5. 学友会音楽部の復興予算申請／（学生部移管文書『文化部諸綴』より）

音楽部など機材を多く使用する部では、戦時中にその多くを供出や戦災などで失った結果、それらを再び揃えるところから戦後の活動が始まった。

●資料翻刻

昭和廿二年三月十五日

東北帝国大学学友会文化部
音楽部長　　米澤治文（印）
仝委員代表　福田　良（印）

東北帝国大学
　学生部長　殿

　東北帝国大学学友会文化部音楽部復興に伴ふ臨時予算配賦申請書
本音楽部は太平洋戦争勃発に伴ひ昭和十八年以降閉鎖のやむなきに至り今日に至りしも戦争休止と共に日本文化の澎湃たる勃興に刺戟され我音楽部も本来の面目を発揮し東北地方唯一の交響楽団として荒廃せる人心を慰安して延ひては音楽を通じ学徒及民心の啓蒙に努めつゝあるも何分長期間の閉鎖により諸楽器の破損甚だしく且交響楽団編成上楽器の不足も亦甚だしきに依り別紙の通り復興予算を計上し以てその完璧を期せんとするものなり。

音楽部復興予算内訳
一金　四五,〇三〇円也

新規又ハ修理ノ区分	品名	単価	数量	金額	現在所有ノ有無	備考
新規購入	フルート	二,〇〇〇	二	四,〇〇〇	ナシ	
仝	仝ケース	二〇〇	二	四〇〇	ナシ	
仝	オボエ	三,〇〇〇	二	六,〇〇〇	ナシ	
仝	仝ケース	二五〇	二	五〇〇	ナシ	
仝	クラリネット(A)	二,五〇〇	二	五,〇〇〇	ナシ	
仝	仝ケース	二五〇	二	五〇〇	ナシ	
仝	フレンチホルン	六,〇〇〇	二	一二,〇〇〇	一	
仝	ヴィオラ	二,〇〇〇	一	二,〇〇〇	一	
仝	仝弓	四〇〇	一	四〇〇	一	
仝	仝ケース	三〇〇	一	三〇〇	一	
仝	チエロ	二,五〇〇	一	二,五〇〇	一	
仝	仝弓	五〇〇	一	五〇〇	一	
仝	仝袋	五〇〇	一	五〇〇	一	
仝	タンバリン	二五〇	一	二五〇	ナシ	
仝	トライアングル	五〇	一	五〇	ナシ	
仝	セット・ドラム用器具	七〇〇	一	七〇〇	ナシ	
仝	譜面台	二五〇	二〇	五,〇〇〇	完全ナルモノナシ	
仝	仝指揮者用	五〇〇	一	五〇〇	ナシ	
仝	指揮棒	三〇	一	三〇	一	
修理	バズーン	一,〇〇〇	一	一,〇〇〇		
修理	トランペット	二〇〇	二	四〇〇		
修理	小太鼓	五〇〇	一	五〇〇		
	荷造及運賃		一式	二,〇〇〇		仙台駅渡
	計			四五,〇三〇		

3-6. 敗戦直後の学生団体一覧（パネル）

→「展示記録　東北大生の一世紀」(『東北大学史料館紀要』第四号　2009年）掲載

3-7. 厚生会館（旧北門食堂）の建設（昭和二十四年七月五日評議会議事録）

2011年に解体された片平キャンパス北門外のいわゆる「北門食堂」は、戦後の学生厚生施設復旧の一環として、戦災で焼失した「創立25周年記念会館」の跡地に、教職員や学生・卒業生らの寄付により建てられたものであった。

●資料翻刻

厚生会館設立要項

一、趣　旨　　職員、学生生徒の生活援護並に文化の向上を図る為の施設を建設する。
一、設立場所　北門前焼跡
一、名　称　　厚生会館（仮称）
一、建　坪　　延二七〇坪
　　内訳　　大食堂（七〇坪）職員食堂（三〇坪）中食堂（三〇坪）小集会室（一〇五坪五室）娯楽室（二〇坪）宿泊室（五坪三室）事務室、宿直室、浴場、炊事室、売店、修理所、理髪所等
一、経　費　　六〇〇万圓（寄附金に依る）
　　内訳　　四八〇万圓　建築費（坪一八,〇〇〇圓約二七〇坪）
　　六〇万圓　　学生会館の負担金
　　六〇万圓　　募集費
一、寄附予定者数　　二二,〇九二名
　　内訳　　教職員（三級及同格以上）　一,四〇六名
　　卒業生　一三,四二九名
　　在学生の父兄　三,四九六名
　　新旧制入学生の父兄（昭和廿四、三年）　三,七六一名
一、寄附金　　一口五〇〇圓以上（多くを希望、但し都合により半口でも結構）
一、設立組織　厚生会館設立委員会により設立する
一、期　限　　寄附募集は本年十二月末に一応打ち切り一月から着工すること、来年度の新入生父兄にも募集し、附設工事、備品購入を行う
　　教職員の寄附金は三ヶ月乃至五ヶ月の分割払とする。
　　寄附金が予定額に達しない場合には毎年新入学生の父兄に募集して増築を続けて完成する予定
　　尚寄附金と同額の本省補助金を要求する予定

厚生会館設立委員会規定（昭和二四、七、五）

第一條　本会は東北大学厚生会館設立委員会と称し事務所は東北大学学生部厚生課に置く
第二條　本会は東北大学職員、学生生徒の生活援護並、文化の向上を図る為厚生会館設立を目的とする。
第三條　本会に左の役員を置く
　　委　員　長　　一　名
　　副委員　長　　一　名
　　委　員　　若干名
　　幹　事　　若干名
第四條　委員長は東北大学長とする。
第五條　副委員長は東北大学学生部長とする。

第六條　委員は東北大学各部局長、評議員、教養部長、分校主事、学生部協議員、同本部局課長とし委員長これを委嘱する。
第七條　幹事は東北大学、本部並同各部局の事務官より委員長これを委嘱する
常任幹事は学生部事務官とする。

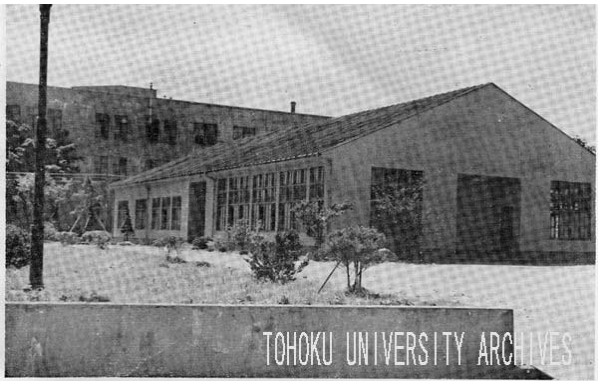
趣　意　書

拝啓　時下盛夏の候益々御清祥の段お喜び申します。
さて本学が戦災で建物の三割を焼失しましてから已に五年も経ちましたが、その間に僅かの教室や研究室が復興した丈で学生や職員の食堂、集会室等は今だに復興の見込が立ちません。学生の大部分は教室や芝生で弁当を食べていますがお茶を飲む部屋もなく、勉学で疲れた学生に一刻の慰安を與える場所もない有様です。こんな事情ですから学生の日常生活を少しでも気楽にし度いと考えまして、父兄・卒業生・教職員が一致協力して左記の様な集会室・食堂・喫茶室・売店・修理店等の施設を総合した厚生会館を学生集会所の焼跡に復興し度いと計画致しました。
就いては出費御多端の折柄誠に申し兼ねますが右の趣旨を御汲み取りの上何分の御寄付を賜り度く伏して御願い申上げます。
　尚学生の宿舎難を緩和するために財団法人学徒援護会で本年八月に仙台市に学生会館を設立して百数十名の学生を収容することになり、本学学生が百名近くも入館出来ることになりました。その設立経費四百八〇万圓は、文部省・宮城県・仙台市で大部分補助して頂き、大学側で六拾万圓を負担することになりましたので、今回の募集総額の中には右の部分をも含んでいますことを御諒承の上、学生の宿舎難をも御助け下さる思召で何卒御寄付下さる様併せてお願い申上げます。

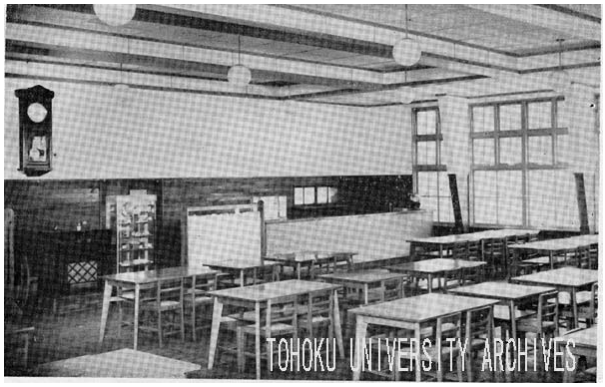
記

　省略

3-7.〔写真パネル〕完成時の厚生会館（外観－東側から）
3-8.〔写真パネル〕完成時の厚生会館（食堂）



3-7



3-8

テーマ４．物理学教室の復興記録

4-1. テーマ解説〔パネル〕

４．物理学教室の復興記録 ―林　威（はやしたけし）　教授の文書から―

当館が所蔵する資料の中で、学科や研究室といった教育研究現場での戦災復興への取り組みについてもっともまとまった形で情報を提供してくれるのが、元理学部物理学科の主任教授　林威（はやしたけし：1904～1996）から当館に寄贈された「林威文書」です。

理学部物理学教室は、東北大学の中でも、空襲によってもっとも激しい被害を受けた教室のひとつです。林教授はこの物理学教室の復旧・復興において、各方面への協力依頼に奔走し中心的な役割を果たし、その手許には物理教室の復旧・復興の過程で作成された記録がまとまって残されました。そこには、同教室の具体的な被災状況をはじめ、物理学教室から卒業生その他の学外者にあてた実験器具その他の寄贈・貸与依頼や、理学部内での復興計画や経費に関する検討資料など、現在遺されている公文書からは確認できない、具体的かつ実態的な、教育研究現場の復旧・復興の様子がうかがえます。

これらの資料は『東北大学五十年史』（昭和35年刊行）の編さんに利用されたあと、貴重な資料として当館に寄贈され、今日まで伝えられてきました。

大学には、学部・研究所などの部局から個々の研究室・研究会・サークルなどに至るまで、大小実にさまざまな組織がありますが、いわゆる「公文書」だけではこうした教育研究の現場での具体的な状況は十分把握できません。学科・研究室、部・サークル、さらには教職員・学生など個人が収集・整理した資料を、意識的に整理・保存していくことも、重要なことなのです。

4-2. 理学部の戦災復旧状況（昭和25年）

（林威文書　『戦災復興』より）

陳情のため本間俊一代議士宛てに提出された文書。

拝啓　時下益々御清栄大賀の至りに存じ上ます
扨て当東北大学理学部の戦災復興に関しましては種々御配慮ありがたく篤く御礼申上ます
　終戦以来既に小生等鋭意復興に志しつゝも諸事意の如く進まず建築に関しては多少の回復を見たるも施設に関しては何等の処置なく教育にも研究にも困難を極めて居ります　若し貴台の御高配により文部当局の善処を得ることを得ば誠に幸甚の至りに之有別紙参考書類御一覧の上何卒よろしく御取計ひの程懇願申上ます
先は右勝手なから御願申上ます

敬具

昭和廿五年二月十三日

東北大学理学部長　　山　田　光　男

本　　間　　俊　　一　　殿

東北大学理学部建物戦災及び復興状況

教室	数学	物理	化学	地球物理	天文	事務共通	工場	向山
戦災前（坪）	378.5	1052.75	1169	142	95	283.5	197	121.3
戦災（坪）	258.5	828.75	221	70	65	143.5	191	35.3
残存（坪）	120	223	978	72	30	141	6	86
戦災率（%）	68.2	78.7	18.5	49.9	68.4	51.3	98.5	29.1
復旧（坪）	90	446	0	18	35	71	50	0
現在（坪）	210	669	978	90	65	262	56	86
復旧率（%）	55.5	63.4	81.5	64.3	68.5	92	28.4	70.9
半復旧（坪）		68						
（備考） 半復旧とは屋根は完成せるも内部設備予算不足のため未設にて使用不可能のもの								

理学部に於ける実験設備に対する戦災状況及其の復旧現状は左の通りである

物理学教室　明治四五年創立以来終戦まで備品器械として記帳されたもの三五〇〇点で（購入価格二五万円、時下見積三千万円）その大部分八〇％を失ひ残存せるもの一五〇点にすぎない
之に対し終戦後交付せられた復旧費は合計三六万円にすぎない
このため学生実験は学生数の過半を金属材料研究所、科学計測研究所、東北金属会社に依頼して居る　この事は学生教育上職員としてまことに忍び得ない所である

地球物理学教室　研究室の一部並びに学生実験室の全部は理学部煉瓦館の中にあったゝめ戦災によって其の設備の大部分を失った　現在までに之に対し戦災設備復旧費としては僅かに昭和廿二年度に七五六四円を割り当てられたのみで其の後復旧費は交付されて居ない

天文学教室　戦災により研究設備の殆んど全部即ち五吋赤道儀式望遠鏡、太陽研究用シーロスタット、プリズム分光器等を失った
この事は天文学教室に於ける実験観測の教育と研究とを完全に不可能にして居る

化学教室　戦災により有機化学、無機化学、生物化学、理論化学の各学生実験室を焼失し其れに収容せる実験台二四個、備品二六七二点（購入当時金額五五六一六円、時下五〇〇万円）を失ひ化学研究上不可欠の光学機械は全滅し其の損失は誠に致命的のものである

これ等実験設備の復旧に関して昭和廿六年度予算概算要求に於て早急復旧を申請したが依然として殆んど認られて居ない状態である

現在理学部としては少くとも左記の設備復旧を申請するものである

物理学教室

品　名	金　額
直流電源設備及蓄電池	二二一〇、〇〇〇円
高電圧装置並Ｘ線装置	二三〇〇、〇〇〇
分光学的研究装置並光学器械	一六六〇、〇〇〇

電気計器並精密電気計器	一八八〇、〇〇〇
高圧器並熱計器	一二三〇、〇〇〇
光学器械及真空ポンプ	二四〇〇、〇〇〇
学生実験台其他	一九〇〇、〇〇〇
小　　計	一三八〇〇、〇〇〇

4-3. 東北大学理学部物理学教室復旧状況に就て／昭和25年6月

（林威文書　『戦災復興』より）

理学部長名の文書同様、議員や文部省関係者など各方面への提出用に作成された文書。日付の異なる同種の書類がいくつかあり、何度も改訂版が作られては各方面に出された者ものと思われる。

昭和二十五年六月七日

東北大学理学部物理学教室主任

林　　威

殿

東北大学理学部物理学教室復旧状況に就て

東北大学理学部物理学教室は昭和二十年七月十日の戦災により建坪一〇五三坪の七九％を失ひ、実験機会器具の約九〇％を失った。この戦災の痛手は東北大学でも最も大きく、その復旧も最も遅々たるものである。

（一）建　　物

建物は昭和廿二年度四四六坪、昭和廿四年度で六八坪を復旧したが、応急的復旧なるため実験室として、研究室としても甚だ不備で復旧は外形に止り本質には復旧といひ難い．昭和廿四年度に於ては百万円でこの一部補修を行ったが、予算不足のため、未だ壁の焼煉瓦をあらはに出してゐる．応急復旧五一二坪の中実験室に用ひ得るもの約一〇〇坪にすぎない．残りは現状のまゝでは実験室としては使用し難い．尚二階は補修を加へても実験室となる見込は立たない。現在尚生物学教室より八一坪、ボイラー室より一五坪を借用してゐる。

実験室の不足及び後述の実験施設の欠乏のため、現在学生研究実験を金属材料研究所一六名、科学計測研究所三名、高速力学研究所一名、電気工学科一名、計二一名を教室外に於て行ってゐる。将来復旧計画にはこれらの学生実験室約二〇〇坪、教官及び大学院学生研究室三〇〇坪を合計五〇〇坪を要する

尚附設建物として木工場、電源室、鍛冶室、学生室等も考慮していただき度い

（二）実験用機械器具並に施設

建物の不足、不完全なることもさることながら、目下最も困難を極めてゐる緊急問題は研究実験用機械器具及び設備である。明治四十五年創立以来戦災前まで実験機械器具として備品簿に記載されたもの三五〇〇点（購入時価格二五万円）の大部分が戦災により失はれ、残存せるもの一五〇点に過ぎなかった。

以上は実験用機械として購入せるもののみであるが、その他材料を購入し製作せる実験

装置、実験用配線、水道設備及び衝立、幕、実験机、戸棚、椅子等を加へれば、戦災実験用機械並に施設は時価にして五千万円以上に及ぶ（時価換算率一〇〇倍）

右の事情に鑑み毎年多額の備品復旧費を申請せるも終戦後交付された備品復旧費は五十万円に過ぎない。実験装置の不備は勿論、講義用学生机もなく板を組立てた応急台を用ひてゐる状況である。今まで文部省より配分された科学研究費の約半ばは学生の研究に並用されてゐる。

学生実験を物理学教室内で充分行ふことが出来ぬため、終戦後毎年学生の過半数を金属材料研究所、科学計測研究所、高速力学研究所東北金属 KK に委嘱した。昭和二十五年度に於ても尚二一名を委嘱してゐる。

新制大学設置委員会からも「実験研究施設の整備」を指示されてゐるが、これが完備に対して民間寄附が望めぬ今日、国家予算に待つ他ない状態である。

4-4. 理学部復興委員会の記録メモ（昭和25年）

林威文書　『戦災復興』より

理学部内での復旧予算の要求や配分などについて議論された模様である。公文書としては所在が確認できておらず、林教授の個人資料が唯一の現存資料となっている。

●資料翻刻

理学部復興委員会　第一回会合　一.六
　委員長　学部長　幹事.　加藤、林
学部長、赤煉瓦復興へ支出セルモノ三〇二万円＋百万円
　　工学部　　四九　　＋二二〇
　　法文　　一七八　　＋二三〇
　　本部　二〇　　農学部　六〇万円　　金研一四九万円　高速力学
　建物附設設備費　理学部三四万円　庁用器具費　本省ヨリ物理へ指定
　戦災建物坪数　五千
　今迄設備費ニ付イテハ各教室カラ提出セルモノ纏メタコトナシ
　戦災復旧ハ十年間ニ六－七割復旧ノコトトナツテヰル
野添教授　化学戦災ニ付て復興ノ権利主張セリ（小建物ニ付キ）
　理学部全般カラ見ラレ度イ。
費用　二三年度　20万円　理学部ニ来テ各教室へ分割シタ.
　　二四年度　34万円　物理宛ニ来ルコトニナツテヰル
二四年度理学部物件費（設備費ヲ含ム）七,五〇万円
　一割位デハ戦災復旧ノタメニ廻スコトガ出来ナイカ.

理学部復興会議　第二回　一、二四　三時
○会計課長ガ話ヲキキニ来ルトイフタ.
○委員会ハコノママ他ノ評議員等ヲ入レズニ進メル.
○施設局ニテ様子ヲキクコト.

〇備品費ヲホシイ.
〇会計課長ハ財団等ヲ作ル様ニイフ◆◆大学一本ノ◆ヲ近ク様々特ニ依頼シ度イ.
委員長　山田学部長
幹事　加藤、林
委員　野添、泉、一柳

復興委員会第三回　二五、二,三
山田学部長　柴田営繕課長談トシテ　水曜日（八日）ニ文部省ニテ会議アリ
柴田営繕課長、会計課長、田口技術官、施設局立張部長出席
ソノ前ニ理学部の希望ヲバ陳ベルトヨイト考ヘル. 新設計ノ建物ニ関スル処見ヲ提出スル様ニシ度イ. 之ハ廿五年度ノ復興会議デアル.
200坪ノ木造ト400坪ノコンクリート建ヲ計画シテヰタ.
坪数ヲ幾分多ク申出ル.
田口施設局技術官ニ説明シテ貰ヒテクイ違イノナイ様ニス
山田、加藤、林、山本、施設局へ出張　200坪（木)、９00坪（コンクリート）
〇行政部費、文部省ノ会計予算ニトツテアル
針替、桑野予算第一掛長、浅野
一〇〇万円以下ノモノハコノ行政部費ヨリ支出ニナル
大学整備費トシテ公共事業トシテノ戦災復旧建物ノ故ニ支出サレル.

二五.二.一〇　復興会議
山田学部長
文部省管理局
教育施設部建築課長小野廣氏
木造二〇〇坪　ヲ廿五年度ニ　鉄筋三階コンクリート四〇〇坪ヲ後年ニナス
文部科学省管理局建築課大串不二雄氏（小野廣氏ノ下ノ人）
経済安定本部　文部省官僚事ム官　キゴ事ム官　二〇〇坪　四〇〇坪か適当ナリ
〇建物（赤煉瓦）補修ハ廿五年度内ニ行ウ（計画順序）
化学ハ戦災ト平行シ出来ルカモ知レヌ　大学整備費ニヨルモノ.
加藤教授
会計課長（二、九）　農学部ニ関シ本間代議士ニ文書ヲ提出スル　理学部ニ付イテモ出ス
沿革、戦災、復興状況、写真、建物ノ図面
設備ニ関シ　戦災復興ニ必要ナル設備　六八〇〇万円
廿四.五〇〇〇万円出シテ二五〇万円（物理三四万円ハソノ一部）通ツタ.
〇戦災復興設備費トイ夏ニ申請シタモノト重複シテヰル
帝大ノ特殊性、事務官庁デナイコト、新制大学設置委員会指示

4-5. 物理学教室卒業生への協力依頼

（林威文書『自昭和二十二年七月　卒業生復興後援会　記録　寄贈品名』）

国家予算による復旧がなかなか進まず、一方で必要な設備を揃えないと新制大学としての認可が受けられない、という危機感に促され、物理学教室の教官や有力 OB が発起人となり、卒業生らに実験器具や備品等の寄付・貸与を依頼した文書。

拝啓卒時下益々御清栄大賀の至に存じ上げます　扨て当物理学教室先年戦災を蒙って以来職員一同鋭意回復に努めましたが意の如く進捗致さず現状左記の如くにて此上は尊台の御協力を仰いで前途を打開するの外なく何卒左記御一覧の上御援助を賜はる様懇願申し上げます。

教室の復興に対しましてはまづ第一の困難は建物の無いことでした　理学部最旧館（赤煉瓦建物）の復旧が漸く進捗し二階天井水道及びガス工事、実験台築造を残し其の一階及び地下室を実験室に用ひ得る様になりました．他方生物学教室内に九室を借り之を以て実験装置を置く場所が得られる機に到りました．第二の困難は理学部機械工場の戦災を免れた主要部が、二十一年末に漏電にて焼失し小機械器具類の修理も不可能であることです．現在工場復旧に全力を盡して若干の希望を認めるに到りました．第三に多数の実験装置を焼失したことは学生実験殊に二、三年の研究実験に対して重大の困難で本年三月卒業の学生の研究実験には金属材料研究所、科学計測研究所、及び東北金属会社に依頼して実習を致しました．建物がともかく多少の形をなした上は実験設備の整備が急務となりましたが施設復旧割当額は甚だ僅かで（二十二年度五万円）あり現今物価高騰の故に実験装置の入手が極めて困難です今のまゝでは学生の学力を低下せしめるの外なく担当職員の苦心致す処です．御協力を御願ひ致すことも時節柄恐縮と考へ延引致して参りましたが昨年夏以降特に東京並びに当地在住の有力先輩の方々の御同情と御激励を受けこゝに諸先輩に対し後輩学生のために深甚の御考慮と御同情をお願ひして教室復興殊に実験研究復興のため御協力を懇願致す次第であります．

御協力の御願ひの具体的事項は

1. 物理学研究実験に必要な装置及び設備につき現品の寄贈又は有償譲渡又は期限付貸与を願ひます

装置とはモートル電源、電線、バーナー等の初級品より計器類及び精密級の装置まで含み、設備とは窓ガラス板、実験台築造用煉瓦セメントの類まで含みます．完全品に限らず不完全品にても結構です．詳細は後頁の附表を御参照下さい．

2. 復旧必需品資材器具購入に対する御斡旋

生産指定必需物資に対する文部省発行の指定切符の現物化に対し御関係物資の御斡旋を願ひます

3. 其他復旧促進に対し適切なる事項の御教示を願ひます

例へば軍の設備器財のある場所をお知らせ願げれば例へ賠償指定になってゐても指定解除を願ひ出ます．又小、中学校で相当高級なる軍の器財譲渡を受け使用せず放置してあるものがあれば大学に再譲渡を願ひます

右は左記諸先輩の御発案或は御賛同によって計画致しました（敬称略ア音順）

大久保準三　茅　誠司　宗　正路　栗山　秀雄
中西　勝治　濱田　秀則　眞島　正市　松田　孜
増本　量　松山　芳治　山本　勇

右計画に対する御連絡は同封ハガキを以て「仙台市片平丁東北大学理学部林威」宛に御返信願ひ上げます　敬具

昭和二十三年　月

東北大学理学部物理学教室
山　田　光　男
高　橋　　胖
林　　威
中　林　陸　夫

殿

附表

一、電気関係	（ロ）電気測定器	増幅装置
（イ）電気機器	陰極線オシログラフ、ブラウン管オシログラフ、電磁オシログラフ	（ハ）管球類
配電盤	アンメーター（配電盤用）D.C　A.C.	ケノトロン整流管
直流発電機	ボルトメーター（配電盤用）D.C A.C.	クーリッヂ管
変圧器（動力用）	アンメーター（精密級）D.C　A.C.	光電管
整流器（電池充電用セレンアンガー、小型水銀整流器）	ボルトメーター（精密級）D.C　A.C.	光電池
蓄電器	ミリアンメーター（配電盤用／精密級）D.C	（ニ）その他
小型変圧器（スライダック）	ミリボルトメーター（配電盤用／精密級）D.C	蓄電池　A．B
インダクションコイル	マイクロアンメーター（配電盤用／精密級）D.C	蓄電池用硫酸
小型電動機（単相　整流子）1/8、1/4、1/2巾	メガ――	二、機械関係
三相電動機　1.2.5巾	熱電対温度計	（イ）工作機械
X 線用（又は高圧試験用）変圧器	抵抗温度計	研磨機及び研磨盤
X 線管繊條加熱用変圧器	光学高温計	卓上旋盤、定盤
高周波電気炉（ボンバーダー）	検流計及びランプとスケール	歯科用グラインダー
電磁石	ホイートストン橋	卓上ボール箱
抵抗器	ポテンシオメーター	精密級ローラー（小型圧延機）
絶縁碍子	電気計又は電位計（金箔繊維）	木工用器械類及び刃物
	抵抗箱（精密級）	機械工場用大型機械及び小型精密級器械類
	リケノーム高抵抗	（ロ）測定器具

マイクロメーター(ネヂ)	暗室用濾光板	（ロ）事務用品
キャリパー(ノギス)	Ｘ線蛍光板増感紙	タイプライター(英文)
厚さ標準薄層板（ブロックゲージ）	雲母板（大型単結晶）	計算器
	暗幕	
平面板（標準光学ガラス）	石膏結晶及岩塩結晶	四、素材
オプチカルフラット	方解石	ゴム管
ストレートエッチ	写真乾板及現像用品及び薬品	弗化水素水
ストップウォッチ	（二）器械器具	重水
時計	高温槽又は高温装置	ガラス封込線
比重計	真空油廻転ポンプ	タングステン線
天秤（精密、上皿）	拡散ポンプ（水銀及油）	モリブデレ線
光学機械（Ｘ線機械）	魔法瓶	エンパイヤークロス．テープ
ミクロホトメーター	油缶	綿テープ
顕微鏡（精粗スケール入り）	蒸留水瓶（18立位）	綿巻、絹エナメル銅銭
鑛物用顕微鏡（ポーラロイド）	三、施設及び用品	その他何でも
望遠鏡	（イ）施設及び什器	
コンパレーター	セメント（実験台築造用）	
写真機	板ガラス（窓用）	
複写用写真機及び引伸機	実験台、机、椅子	
分光器		

4-6. 八幡製鉄所からの実験器具寄贈（昭和23年12月）

（『自昭和二十二年七月　卒業生復興後援会　記録　寄贈品名』）

東北大学からの依頼に対し、電圧計、分光器、磁気気圧計など14点の器具が寄贈されることとなった。

昭和二十三年十二月二十一日

八幡製鉄所技術研究所

遠藤勝治郎

東北大学理学部物理学教室

教授　　林　威　　殿

実験器具類無償分譲について

拝啓、時下初冬の候貴職益々御清穆の段大慶の至りに存じます。

陳者去月二十九日附御芳書拝誦致し学部復興のために御盡力の御様子拝察致し只に感激致して居ります。就ては当方に於ても曩に御申越の御趣意に賛同致し微力乍ら関係先とも諒解の上極力奔走致しましたが種々の事情に依り贈呈予定品は別紙写第三項にも記載の如く不完全品多く全く御期待に添い難き点多々あり甚だ遺憾に存じ居りますが此の点悪しからず御諒承下され度取敢へす別紙写の如きものを取揃へ目下当局へ認可申請中でありますが近日何分の決定を見ること丶存じますれば微意御省察の上御諒承下され度右経過御報知迄。

4-7. 寄附を申し入れる OB からの手紙　原正建氏（東京工業大学）

（『自昭和二十二年七月　卒業生復興後援会　記録　寄贈品名』）

戦後の全国的な物資不足にもかかわらず、母校の復興のため多くの卒業生から実験器具などが寄せられた。

林威君
拝啓　元気の由何よりです。仙台に伺ひませぬ事20年以上になります。そんなにひどくやられたとは想像がつきませんでしたね。一昨年あたりにもらひに来られればもっとあげられたんですが、残念です。
清野君が本日来訪、ハガキに書きましたものは全部ことづけました。小生が真空ポンプをもってゐたとは意外でせう。之は外の目的で昔集めて握ってゐた品です。御役に立てば本望です。
野村将軍山下八郎君は小生も消息を得る手づる無くわかりません。
仙台は米の㋮が当地よりべらぼうに安く、清野君よりきいてびっくりしました。当地の物価高では生活の心配に追ひかけられ通しで実験の方も牛のあゆみです。下っぱ連中は尚更困ってるのでカロリーのいる仕事は遠慮しながらいひつける現状で、装置を組あげるには悩んでゐます。先は一筆

原正健

4-8. 寄附を申し入れる OB からの手紙　塩谷氏（日本鋼管富山電気製鉄所）

（『自昭和二十二年七月　卒業生復興後援会　記録　寄贈品名』）

最近は降りつづいて身体、電力共々に助かって居ります。
長らくご無沙汰いたしましたが、御壮健で御奮闘のことと存じます
さて先日教室より実験室再建の檄が来て居りましたが、個人的には、手も足もでないので、工場に頼んで左記品物を出して貰ひ、ささやかながら仲間入りさせて貰ひます。
然しながら当工場の法的制限の為貸与といふ形式を執っていただきたいと思ひますから、教室としての借用証を後日工場長宛に出していただきたいと思ひます（これは形式だけですから）

イ．化学天秤　一
ロ．上皿天秤　一
ハ．三相モータ（二馬力）　一

ですが、モーターの荷の中へ、アルメル、クロメル線各々２ｍ、綿テープ10ヶ、エムパイア．クロス．テープ５ヶ、ゴム管10m程同封します。
只、天秤は近頃の破くわい的鉄道では如何に荷作りしても安全ではありませんから、誰れか附近の学生が帰郷した際、取りに寄こして頂けんでしょうか.
その場合、日時、氏名を前もってお知らせ願います

まずは用件のみ

奥様初め皆々様によろしく

塩谷生

中林兄

※「日本鋼管株式会社富山電気製鉄所」名入りの便せんに記入

4-9.〔パネル展示〕理学部物理学教室の復旧過程

理学部物理学教室の復旧過程

昭和20年７月10日空襲→物理学教室、爆撃を受け破壊

→学内諸部局に依頼し教室等を借用。学生実験については、企業の工場等に委託

昭和20～21年

復旧予算の要求（理学部を通して）

昭和22年７月　　卒業生復興後援会結成

→理学教室卒業生らへの備品等の寄贈・貸与依頼

昭和24年12月　　理学部戦災復旧委員会　設置

昭和25年２月　　復興予算要求につき、理学部長から本間俊一議員に善処依頼

昭和27～32年　　理学部新館建設（現・多元研科学計測棟および本部棟財務部・研究協力部）

4-10.〔写真パネル〕理学部の被災建物

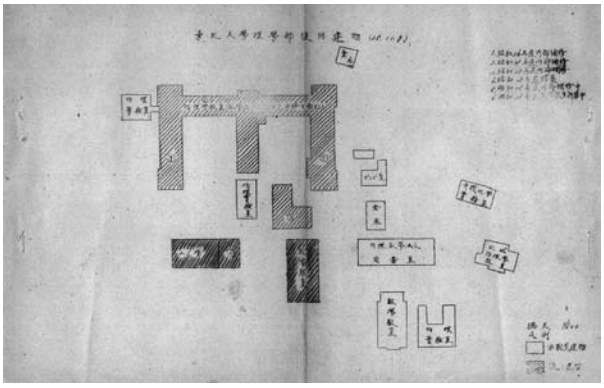
（林威文書　『戦災復興』より）

北側の赤レンガ館、南側の木造本館およびその周囲の建物が被災

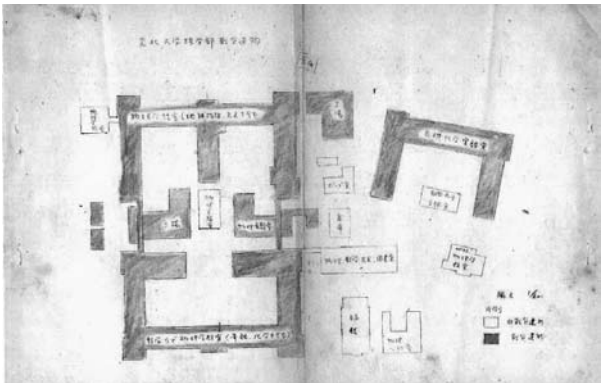
4-11.〔写真パネル〕理学部の復旧建物

（林威文書　『戦災復興』より）

南側の木造本館は撤去され、赤レンガ館は仮設の屋根をかけて仮復旧した



4-10



4-11

4-12.〔写真パネル〕仮復旧後の理学部赤レンガ館

旧建物に屋根を仮設したもの

仮設復旧された赤レンガ館も、昭和30年代後半には取り壊され鉄筋コンクリートの新館（現多元研科学計測Ｎ棟）へと建て替えられた。

4-13.〔写真パネル〕赤レンガ館の解体

4-12

4-13